

令和2年度 岩手県立水沢高等学校経営計画

校長：及川 晃貴

1 現状把握及び将来展望	(1)学校に対するニーズ	生徒 ・学力の向上 ・生活、行事の充実 ・部活動の充実 ・進路目標の達成	保護者 ・授業満足度と学力の向上 ・個に応じた生活指導 ・きめ細かな進路指導 ・学校情報の発信	地域住民 ・地元のセンター校 ・進学実績の向上 ・地域人材の育成 ・活力と魅力ある学校	地元中学校 ・教科指導の充実 ・部活動の充実 ・進学実績の向上
	(2)パートナーとの関係	生徒 ・自主自律の取組 ・部、生徒会、有志活動による学校活性化	保護者 ・教育活動への協力 ・PTA活動への参加 ・学校情報の提供	地域住民 ・教育活動への協力	地元中学校 ・中高連携の強化
	(3)学校に影響を与える変化	・少子化による生徒数減少 ・管内中卒生の3割が管外高校(高専)に進学、中高一貫附属中学への進学児童の存在 ・国による高大接続改革(大学入試改革)の動向、高等学校学習指導要領の改訂			

2 教育目標等 **真善美を常に求め、自主自律の精神と創造建設の気魄に満ち、友愛と信義を重んずる心身ともに豊かでたくましい人間の形成を図る。 * 生徒会モットー「友愛・清新・気魄」**

		重点目標	目標指標
1	(1)重点目標	ア 水高精神「伝統に培われた自由と創造の澁刺たる気風」の下、生徒と職員と保護者が信頼の絆で結ばれた学校	・本校に入学して良かったと答える生徒の割合【87%】、保護者の割合【88%】
		イ 旺盛な探究心により自ら学問を切り拓き、培った知識・技能を活用しながら将来展望を確立できる学校	・クリティカルシンキングの能力が向上したと答える生徒の割合【77%】
		ウ 文武両道を旗印に諸活動に連携・協働して取り組み、自他を尊重する品位ある人間を育成する学校	・部活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合【83%】
		エ 自己実現に適う自律的な生活実践により、心身健康で幸福な人生の礎を築く学校	・22 時以降、通信端末による外部連絡を控えていると答える生徒の割合【55%】
		オ 学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめの防止に注力する学校	・学校生活が充実していると答える生徒の割合【86%】
		カ 郷土愛と学校愛に溢れ、地域と社会に貢献できる生徒を育成する学校	・4年制大学進学率【82%】
3 目指す学校像	(2)取組方針	ア 《チーム学校》水高精神「伝統に培われた自由と創造の澁刺たる気風」の下、生徒と職員と保護者が信頼の絆で結ばれた学校 (ア) PTA・同窓会・地域と連携し、関係者総がかりで生徒を育てる「チーム水高」体制の構築を図る。 (イ) 教職員評価、生徒・保護者アンケート等自己評価により、目標達成状況や取組の適切さを検証する。 (ウ) 学校評議員による提言及び学校関係者評価の結果を、学校運営の改善に位置づける。	
		イ 《学力育成》旺盛な探究心により自ら学問を切り拓き、培った知識・技能を活用しながら将来展望を確立できる学校 (科学的思考力/問題解決能力/情報活用能力) (ア) 主体的・対話的で深い学びによる学力の向上と、生徒が描く将来像に即した進路目標の達成に注力する。 (イ) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の展開により、科学的能力・科学的思考力を培う。 (ウ) 「いわて学びの改革プロジェクト」の推進により、ICT機器を活用した授業改善に取り組む。	
		ウ 《創造建設》文武両道を旗印に諸活動に連携・協働して取り組み、自他を尊重する品位ある人間を育成する学校 (公共心・公德心/リーダー性/協調性/創造性) (ア) 自主的・自発的な部活動参加を通じ、目標達成を目指して技術向上を図るとともに規範意識の醸成や挨拶の励行等品位を磨き、自己有用感を高める。 (イ) 運動会や飛龍祭(文化祭)、応援団活動等特別活動をとおして、自主運営によるリーダーシップと協調性を育む。 (ウ) 志を共にする生徒の自主活動である「有志活動」を尊重し、創造性と思いやりの心を育む。	
		エ 《自主自律》自己実現に適う自律的な生活実践により、心身健康で幸福な人生の礎を築く学校 (総合生活力/自己理解・自己管理力/社会参画力) (ア) 読書推進や文化・芸術活動の体験、奉仕活動の実践等により、幅広い教養と豊かな情操を培う。 (イ) 健やかな心身を育む健康教育と安全指導の充実により、セルフマネジメントの能力を高める。 (ウ) 省エネ・省資源、環境美化の取組を契機に、持続可能な開発目標(SDGs)等社会づくりへの理解を深める。	
		オ 《友愛と信義》学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめの防止に注力する学校～生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」の推進(未然防止)～ (他者理解力) (ア) 日常の声かけや面談、アンケート等により生徒理解に努めるとともに、いつでも、どこでも、誰にでも相談できる雰囲気づくり・相談体制の確立に努める。 (イ) Hyper-QU 等の研修会を実施し、分析結果の活用により、生徒個々の特性に応じた支援を行う。 (ウ) 教職員間・保護者の共通理解の下、スクールカウンセラーや関係機関と積極的な連携に努める。	
		カ 《復興教育・地域理解》郷土愛と学校愛に溢れ、地域と社会に貢献できる生徒を育成する学校 (人生設計力/国際性) (ア) 「いわての復興教育」の教育的価値を踏まえ、互助精神を活かし自他の生命を守る人を育てる。 (イ) 地域資源を積極的に活用するなどキャリア教育の充実を図り、地方創生の担い手を育てる。 (ウ) 教育活動に関する情報発信及び教育情報の提供等、積極的な情報公開に努める。	

《 》：
教育目標との
関わり

()：
育成すべき資
質・能力